



美杉町多気の石造六地藏笠塔婆

古くからある集落の傍らには、灯籠のような石造物「笠塔婆」を見かけることがあります。塔婆とは本来、仏舎利(釈迦の遺骨)を埋納する施設を指しますが、供養・祈願・報恩のために建立されたものも塔婆と呼ばれています。

今回紹介する笠塔婆は美杉町下多気の畑地にあります。地元で大洞石と呼ばれる凝灰岩が使われていて、下方より基台・竿・中台・塔身・笠からなります。頂部の宝珠は失われ、基台も後から造り替えられたものと考えられます。円柱状の竿以外はどれも六角形で、塔身部に六地藏が各面に一体ずつ薄く削り出された石造六地藏笠塔婆で、平安時代以降の笠塔婆の様式を伝えています。竿には「文明十八年十一月□日」(1486年、日は判読不能)の銘が刻まれている、室町時代に製作されたことが分かります。

中世以降、地藏信仰が盛んになったことにより、六地藏塔は全国各地に類例が見られ、比較的保存状態の良いこの石造六地藏笠塔婆は、製作年が分かるものとして貴重であることから、三重県の有形文化財に指定されています。

このほか指定文化財ではありませんが、上多気の墓地の入口にも石造六地藏笠塔婆が1基あり、製作年代は不明ですが、下多気の笠塔婆と同様のその姿から室町時代のものと考えられています。

これらの石造六地藏笠塔婆は、伊勢国司北畠氏が多気を本拠として活躍した頃

に建立されたもので、城下に暮らす人々が何らかの思いを込めて建てたのでしょう。石造物を訪ねながら、北畠氏一族が活躍した時代に思いをはせてみてはいかがでしょうか。



下多気の笠塔婆(県指定有形文化財)



上多気の笠塔婆

